Web 版

ことぶき共同診療所だより

第 36 号

2013 年 12 月 20 日発行

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17 リバーハイツ石川町 1･2F
電話とﾌｧｯｸｽ 045-651-2305(診療所) 045-305-4322(鍼灸院・資料室)
E-Mail info@kyoudouclinic.com
http://kyoudouclinic.com

発行：医療法人ことぶき共同診療所

目 次

２０１３年下半期 診療所を振り返る・・・・・・・・・・・・・・ 鈴木 伸 ②
今年の“大運動会”・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 沓澤 則子、長島 克政 ④
“診療室から”（32）－ 不機嫌な患者さん －・・・・・・・・・・・ 野本 清志 ⑤
若山康志さん、やすらかに 大平 正巳、鳥潟 恭子、橋本 等、船崎 葉子 ⑥
寿町関係資料室コレクション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 松本 一郎 ⑩
－【２】『神奈川県匡済会四十五年のあゆみ』－
寿町を見学して・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 鈴木 慎、大和田 舞 ⑪
職員自己紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 久松 由華 ⑭
寿町地域ニュース・あらかると（’13 年 6 月～11 月）・・・・・・ 松本 一郎 ⑭
診療所日誌（’13 年 7 月～11 月）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 矢島 雅子 ⑮
共同診療所・鍼灸院ガイド・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ⑯

2013年下半期 診療所を振り返る

【はじめに】

毎回書いていてなんですが、あっという間に2013年も終わりに近づいております。今年は「じぇじぇじぇ」と言いたくなるような猛暑で、その後厳しい残暑が続いたのち、台風があれもこれもととおり過ぎ、気がつくとあっという間に寒い冬が来てしまい、秋の気配を感じる間もなかったような気がします。もはや異常気象というより、地球規模の変動期に入ったのかもしれないなあと個人的には考えております。そんな中での診療所の下半期について総括するのはいつ？「今でしょ」ということで振り返ってみたいと思います。

【久松 Drきたる:

毎週火曜日（第1週をのぞく）】

恒常的に医師不足に悩まされている当診療所ですが、今回、久松由華先生が来てくださることになりました。久松先生は、土屋先生の大学での同僚で、心療内科を専門とされています。地元横浜の出身で、高校は寿町のすぐ近くだったとのことですが、寿町には（地元の人にありがちですが）ほとんど足を踏み入れたことがなかったとのことです。しかし、今回土屋先生が声をかけてくださったところ、8月12日から毎週火曜日に当院に勤務してくださることになりました（ただし、当面第1週を除く）。まだ3か月ほどですが、早くも診療所や、寿町になじんでいただいているようです。また、秘密の情報筋によるとかなりの歴女で、新撰組などに非常に詳しいとのことで、寿の歴史好きのおじさんたちとの歴史トークもそのうち見られるのではないかと期待しております。今後も末永くよろしくお願いします。

【デイケアメンバーの若山さんなくなる】

この職業についていると、悲しい別れに直面することが多いのですが、今回もつらい別れがありました。当院のデイケアに通っていた若山さんが50歳という若さで急死されたのです。当初は薬物依存症ということで当院に来院されましたが、アルコールのクロスアディクションもあり、こちらのほうが問題となりました。ミーティングへは頑な拒否があり、やむなく抗酒剤のDOTsをやってもやはりお酒はとまらず、役所のCWと相談し、金銭管理を導入しました。その後、スタッフから「若山さん、デイにどうかしら」との推薦があり、当院のデイケアへ通所されることになりました。当初は表情も硬かったのですが、持ち前の人当たりの良さで急速にデイケアに馴染んでいくと、表情も柔らかくなりました。それに伴いアルコールの量も完全断酒とはいかないまでも順調に減っていきました。日常生活にも変化がでて、当初

は毎日同じ服をきていたのですが、おしゃれ心が復活し、カラフルな服や、それに合う帽子をコーディネートして登場するようになりました。長髪を束ね、さながらTRF のサムのようなかっこよさを呈してきました。すっかり出てしまったお腹を気にし、「どうしたらお腹がへっこみますか？」と気にして漢方薬を試したりしました。また、身体の健康も気にして、自ら肝臓をきちんと見てもらいたいということで総合病院でみてもらい、「大丈夫」とのお墨付きをもらいました。「将来的には母親に預けている息子を引き取るんだ」と夢を語るようになりました。金銭管理でたまったお金でパソコンを買い、youtube でロックを聴くなど健康的な部分が増えてきていました。私も、これは順調ではと思っていました。しかし、その矢先、スリップし、連続飲酒に入ってしまったのです。金銭管理をしていたのでそれほど飲めないはずでしたが、寿町の「絆」の深さが災いし、どこからかアルコールが調達される日が続きました。「明日こそはアルコールを抜いてきてね」と伝えてもむなしく、翌日も泥酔状態が続きました。「大切な友人ならアルコールを飲ませないようにお願いします」という張り紙をはるも無効で、「これはそろそろ入院させねば」と思っていたところ見守りにいったスタッフからメールが入りました。部屋で亡くなっていたとのことでした。よくなりかけていただけに非常に残念に感じました。

翌日、役所から連絡を受けたご両親がわざわざ診療所にいらっしゃいました。ご本人と連絡を取っていたとのことで「今度こそがんばれそうだ」と語っていたとのこと。お母さんが育てている息子さんには「お父さんは最後まであなたのことを気に掛けていたよ」と伝えていただけるようお願いしました。ご冥福をお祈りします（追悼文の掲載あります）。

【看護・福祉・医学生・研修医、

寿町に見学・実習に】

当院ではこれまでも寿町のことを知ってもらったり、将来的にあわよくば来ていただけるのではないかと期待し、また、私が学生時代、あちこちに実習に行きまくり大変勉強になった体験から実習を積極的に受け入れてきました。今年も、研修医、看護師を中心に受け入れてきましたが、8 月には夏休みを利用して国際学生連盟に属する医学生が 7 名寿町を訪れ、ことぶき介護実習、アルクミーティング見学、私のお話、夜の懇親会を行いました。さらに実習後、立派な報告集を届けてくれました（一部は本誌に掲載）。また、10 月から最近では日本赤十字大学・神奈川県立保健福祉大学の学生さんや、東邦大学看護学部の学生さんが見学・実習をしたりと、にぎやかな状態となっております。

かつて、自分も現場を見学させてもらい勉強になった恩を「倍返し」しなくてはと思いつつ、将来寿の医療を担ってくださる方が現れることを願っています。心をこめて「お・も・て・な・し」をしていきたいと思います。

（医師　鈴木　伸）

今年の“大運動会”

いつもお世話になっている沓澤さんと永島さん。当日の突然の原稿依頼でしたが、すぐに快諾していただき、ありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。（編集部）

第 13 回ことぶき共同診療所大運動会に参加して

訪問看護ステーションコスモス寿

沓澤　則子

10 月 11 日、秋晴れの強い日差しのもと、ことぶき共同診療所大運動会が行われました。

私は、寿町で働き始めた 6 年前から、運動会に参加させていただいています。初参加の時は「診療所の運動会」と聞いて、デイケアの方と職員の方との小さい運動会だとばかり思っていましたが、参加機関が多い大運動会で驚きました。仮想競争での鈴木先生の女子高生姿が印象に残っています。その頃は数人の利用者さんと参加していましたが、年々少なくなり、今年はAさんと私の 2 人でした。6 年前は車いす競争で私を乗せて押してくれたり、綱引きで尻もちをついて笑っていたAさんですが、このところは車いすでの参加です。今年は運動会の競技にはめずらしい伝言競争がありました。「ヒラヤマサンがヒマラヤで・・・」、ボール運び競争など車椅子でも楽しめる競技がたくさんありました。そしてAさんはなによりもアルクのメンバーさんに会うのを楽しみにしています。アルク席の真ん中でタバコを吸いながら、「Aちゃん元気か？」と、声をかけられて嬉しそうでした。

飴を食べて真っ白になった顔、逃げまどう玉入れの籠、真剣勝負の綱引き、篠笛の演奏、どれも見ていて楽しかったです。煩雑な仕事を抜け出して気持ちの良い和やかな時間を過ごすことができました。ありがとうございました。来年も楽しみにしています。

○●○

素晴らしい運動会でした

ことぶき介護　永島　克政

快晴の中、運動会を迎える事が出来ました。私は 5 年連続 5 回目の参加となったのですが、毎年この秋の運動会を楽しみにしておりました。今年は事前準備の段階でアルクの方々がライン引きや、色々な事を手伝って下さり、大変助かりました。

競技では、どの種目も白熱したレースになり、大変盛り上がりました。私も含めてですが、童心にかえって、青空の下、広いグラウンドで皆と一緒に運動会が出来る喜びに感謝して、また来年皆と吉浜町公園で綱引きなどの真剣勝負をしたいと思います。

運営に携わって下さったこと共のスタッフ、その他関係者の皆様、本当にありがとうございました。また来年もよろしくお願いいたします。

“診療室から”(32)

不機嫌な患者さん

働き始めて間もない頃、いつも機嫌が悪い患者さんがいました。慢性の心不全で、通院、飲み薬でコントロールしていたのですが、むくみの状態を診るために足を触っても「痛い、触るな」と怒鳴られていました。

その方が、心不全が悪化し、入院することになりました。入院して、注射薬などを使うと、症状は良くなります。入院当初は、苦しくて、何かを言うことも出来なかったのですが、改善するとともに、会話も出来るようになります。すると、その方が、非常に穏やかになっているのです。それは、感謝の気持ち云々といった感じではなく、性格そのものが変わったかのようでした。

退院後、外来でも、その穏やかな感じは変わりませんでした。おそらく、それまでは(苦しいという意識はなくても)苦しくてイライラしていたのだと思いました。

後で知った言葉ですが、心と体は密接に関係しているということを「心身相関」というようです。「精神的なストレスがあると、体の不調として現れる」ということで言われことが多いようですが、逆のパターンもあるようです。

どこかに痛みがあるとイライラする、といった経験は、誰しもあると思います。「血圧が多少高くても、あるいは血糖値が多少高くても、自覚症状はない」と言いますが、やはり、体、あるいは心に何らかの影響を与えているのだと思います。

最近はあまり怒鳴られませんが、不機嫌な患者さんの時は、体の状態が少しでも良くなることで、ひょっとして穏やかになることもあるかも、と思いこむようにしています。もちろん「全ての患者さんが、実は穏やかな人である」といった甘い考えはありませんが・・・。

(野本　清志)

若山康志さん、やすらかに

若山さんを偲んで

若山さんは、2012 年 3 月 16 日にデイケアにやってきました。ご本人はお酒をやめたいがやめられないとお話をされていました。記録を読むと、最初の6ヶ月程はアルコールを抜くことが出来ず生活も乱れ、デイへの参加も挫折をくり返していました。傍目にも、楽しいとは程遠い生活に見えました。この頃は、よくお部屋を訪問して若山さんとお話をしていたことが印象に残っています。アルコールが入りながらも、お酒をやめたいと話す若山さんに、なかば呆れつつも支援と訪問と面談を継続していたことを思い出します。

半年程経過し、担当ケースワーカーによる生活費の金銭管理とデイケア通所、抗酒剤 DOTS、そして担当の鈴木先生や診療所スタッフ、デイケアの仲間との関わりを含む治療が進む中で生活が改善して行きました。この頃の記録を読むと布団乾燥機を購入したり、カラオケ BOX で歌を 10 数年ぶりに歌った、朝起きれるようにと目覚まし時計を購入したりと、それまでとは明らかに違う立ち直りに向けた努力の跡が見て取れます。

この後は、記録によるとスリップも減り、アイロンをかけた洋服を着てきた、おしゃれに気を使うようになったなど、本来の若山さんの姿が見えてきています。私にとっては小さなことに見える出来事にクヨクヨして、他人の振る舞いや言動に傷ついて。でも、我慢しながら頑張る姿が印象に残っています。時折「自分はこんなに頑張っているのに何故、まわりは認めてくれないのか」と不満をぶつけられることもありましたが、「なぜ若山さんはここに通っているの？」と問うと、ハッとした表情でいつもの若山さんに戻って行く。こんなやり取りが思い出されます。

今年は、デイケアの一泊旅行で川遊びに行ったり、頑張りが認められ生活の幅も広がるなど若山さんの希望が叶い始めた年でした。そして、家族のこと。特に事情があって会えない息子さんにいつか会えるように「自分は治療を頑張る」と繰り返し話していました。でも、元々思いやりがあり、他者に優しい若山さん。気がつくと、お酒を呑むグループに嵌まり込みお亡くなりになってしまいました。2013 年 10 月 23 日の朝、私が訪問した時には眠っているようなお顔で布団の上に座って冷たくなっていました。若山さんがどんな方だったかを振り返ると、とても真面目で、自分なりに精一杯

頑張った方だったと思います。そのことをもっと生きている内にお伝えしたかった。もっと応援してあげたかった。もっと踏み込んで支援したかった。今は、そんなことを考えています。前の日の朝に訪問した時に、お酒が入った状態で悲しそうに「すいません」と謝り、 自分を悔いていたことを思い出します。その気持ちを援助に活かせなかったことが後悔されます。

（大平　正巳）

若山さんへ

若山さんを初めて見たとき、「これはまた、うちのデイケアにしては珍しいタイプの方だなぁ」と思った。

ここ寿町には数少ない、本気でおしゃれしている人。例えば、レモンイエローのパンツに白いシャツを開襟にし、ネックレスを見せている。毎朝、トータルコーディネートでにっこり笑って挨拶してくれると「プロフェッショナル」なさわやかさ。さすがだなーと思った。

実年齢と違い、一見ちゃらい若者、でも、家庭を大事にしたかったのだというのがとても印象的だった。

デイケアで、前の席につき書道をやっていたときのこと。

彼は、ととのったきれいな字を書いた。字を書くことについておしゃべりしていると、「こどもが小学生になるとき、学校の用意で、いろいろなものにこどもの名前書くでしょ。嬉しかったなぁ。ひとつひとつ、こう、ゆっくりさ、丁寧に名前書いていって。俺、あこがれたの。こどもの頃から、自分のこどもが出来たらそういうのやってやりたいなぁっておもってた。親になったなぁ。」

嬉しそうに話してくれた。

息子を、家族を、とてもとても大切に思っていた。いつも、こどもを本当によくかわいがったと、きっぱり言っていた。こどもを海に連れて行ったこと。こどもに、戦隊モノのおもちゃをプレゼントした話。

お父さんの若山さんは、自分の抱える現実にたくさん悩んでもいたけれど、大切なものがあって幸せそうだった。

よく、こどもに会いたいと言っていた。それはかなわなかったけれども、こどもを守ってやりたいという強い思いや、大人になっていく息子に伝えたいこと、たくさん深い思いを抱いていた。半年の短い付き合いだったが、こどもと暮らすという夢、もっとちゃんとサポートしてあげたかったな。

調理場でスイカ切るのを手伝ってもらっていたら、ちゃっかりつまみ食いしていたな。いたずらっ子、ちゃっかりした少年みたいでもあり、そして愛情深い若山さんだった。

ゆっくり、休んでね。

（鳥潟　恭子）

若山さんへ

「自分の誕生日は10 月 3 日でオヤジの誕生日が 10 月 22 日。だから 10 月 3

日位から酒をやめていって、22 日には完全にやめようと思っているんです」

若山さんが 9 月頃によく話してくれた言葉でした。

私はデイケアのスタッフに入るときには調理を担当することが多く、若山さんは食材のお買い物の時に、他のメンバーさんと共に買い物担当をしてくれました。

近所のスーパーまでの道すがら、皆さんと話をしながらのんびり歩くのですが、そんな時に若山さんとも沢山の会話をしました。

5 月のある日、若山さんが「空がきれいだ。こんな日は部屋にいたらもったいないですね」とつぶやき、二人で 5 月の空を見上げたりしました。

肉が好きだった若山さん。買い物の時に野菜炒めの肉を多めに買ったりもしました。若山さんの体調が悪い日に肉料理だと「残念です」と本当にさみしそうに言うこともありました。

デイケアの一泊旅行でのバーベキューでは、お肉を堪能し満足そうな表情の若山さんがカメラに収まっています。

デイケアに通って約1年半。通所を始めた頃はアルコールを抜くことが目標の一つで、昼夜逆転状態の若山さんの生活を立て直すためにも、毎朝スタッフがお迎えに行っていたことを思い出します。

何度もお酒を飲んでしまっては、振出しに戻る。そんなことを繰り返しながらもデイケアに通っていました。

診療所のデイケアに通ってこられる患者さん。みなさんそれぞれさまざまな事情をお持ちの事だと思います。

そして現在は一人で暮らしていらっしゃる方がほとんどです。

未来の自分の夢を描く方もたくさんいらっしゃいます。若山さんもいつか再び自分の家族を持ちたいということを、時々つぶやいていらっしゃいました。

月に一回の銭湯を楽しみにしていた若山さん。造形で絵を描く時にはとても丁寧に描いていらっしゃった若山さん。物を運ぶ時など率先して運んでくれた若山さん。お抹茶の時には神妙な面持ちになっていた若山さん。結構食通だった若山さん。おしゃれで、繊細で、人のいい若山さんでした。

そんな若山さんが 10 月 23 日にお亡くなりになられました。50 歳でした。

診療所の職員として若山さんの突然の死は悲しみと共に、悔やまれることもあります。

若山さん。どうぞ、ゆっくりお休みください。

美味いもので楽しんでください。

（橋本　等）

若山さんの思い出

若山さんが亡くなり、少し時間が経ちました。最近は、あまり「わかちゃん、○○だったよね・・・」と懐かしむ言葉も出なくなりました。それでもまだ、デイケアの部屋には若山さんの死で味わった皆さ

んの不安で哀しい気持ちが其処ここに、置き去りのままになっているような気がします。

若山さんは、優しい人でした。

「ありがとう、ごちそうさま、お疲れ様。おいしかったです」。ごく当たり前の挨拶や気持ちの良い一言を、惜しまず、恥ずかしがらず言ってくれる方でした。それは本当に嬉しかった。

「ああ、お母さんのお腹の中から生まれ直したい！」

ときどき、溜息を吐き出すようにそう言って。本当にそう思っているような気がして、その痛さに「本当にそう思ってるんだねぇ」とそのまま返すしかないときがありました。

若山さんは、息子さんの幸せを願う父でもありました。同時に今の自分を息子がどう思っているのか、大変心を痛める父でもありました。

最近は、事あるごとに、ご高齢のご両親に向けて感謝の言葉を口にされていました。

それにしても若山さん、今年の夏の稲子は、とても楽しかったと思いませんか？

川遊びのとき、橋本さん家（ち）の玄くんの頭を、そっと撫ででいたのを見ていましたよ。

見られていることに気が付いて、照れくさそうに笑っていましたね。

もしもいつか、あなたの息子さんがあなたのことを診療所に聞きにきたら、「お父さんは、心からあなたに会いたがっていらした」と話したいと、実は心の中で思っています。

そうそう、篠笛のプログラムの中で、初めて「翼をください」を歌ったことを憶えていますか？　実は、デイケアの中で涙したのは、あなた一人ではなかったです。

その「翼をください」を今度のクリスマス会のときにみんなで歌います。

あなたは、デイケアで楽しい時間を過ごしてくれていたのでしょうか？

私たちの歌を聞いていてください。あなたに届いたら、嬉しいです。

どうぞ、安らかに。

（船崎　葉子）

寿町関係資料室コレクション
【2】社会福祉法人神奈川県匡済会『神奈川県匡済会四十五年のあゆみ』（1963年、非売品、全424頁）

大正7年(1918年)8月4日。富山県の水橋港で、米の積み出しに対して、水上ノブを中心とした「おかか」達が、「米をよそにやらんといて」と訴える事件が起こる(NHK「その時歴史が動いた 第267回 格差への怒り 政府を倒す～大正デモクラシーを生んだ米騒動～」、2006年)。第一次世界大戦の影響で成金となった商人等が、更に儲けを増やそうと、米投機・買占めを行った結果、米の価格は高騰していて、市民に米が渡らない事態が起きていた。それだけではなく、大戦の影響、資本主義の急激な発達によって、高インフレが起こり、全国的に貧困・低所得者が広がっていた。この事件を発端に、全国的に「米騒動」と呼ばれる暴動が起こった。横浜では、8月16日の夜、「横浜公園に人が集まりはじめ、警察の制止にもかかわらずデモに移り、関内の太田派出所を破壊、伊勢佐木町方面にまでおしだし米騒動が勃発した」(中丸和伯『神奈川県の歴史』山川出版社、1973年)。

寺内内閣は、10万人の軍隊を出兵し、市民を弾圧し多くを殺害した。最終的に、寺内内閣は総辞職した。

米騒動当時、神奈川県は8月14日から外米の廉売を行った。8月21日には、有吉知事が、横浜市長、横浜商業会議所会頭らに呼びかけ、「県下における細民生活の状態を調査し、その救済方法を講じ、これが実行を期するを以て目的」とする「社団法人神奈川県救済協会」を翌年1月に設立させた(12月に神奈川県匡済会と改称)。匡済会は、県知事が呼びかけているとはいえ、資本主義社会における支配的な階級(実業家、資産家)が主導して設立させた団体であった。例えば、民間初代会長は、生糸貿易で財をなした原富太郎(号:三溪)である。原は、本牧の三渓園を作った大富豪として横浜で著名な人物である。

本書は、社会福祉法人神奈川県匡済会の設立からの45年間の沿革を記録している。匡済会は、現在「ホームレス自立支援施設はまかぜ」などを運営しているが、神奈川県内の貧困・低所得者対策の歴史においては、常に極めて重要な役割を果たしてきた。

匡済会は、低所得労働者のために、入所施設・低家賃アパートの労働者合宿所・横浜社会館・川崎社会館・横浜新興倶楽部、沖仲仕休憩所、公設市場、公設浴場、社会事業図書館、社会問題研究所などを設置し、運営してきた。本書は、神奈川の貧困対策史や社会事業史に欠かせない1冊である。　（寿町関係資料室　松本　一郎）

寿町を見学して

見学の感想

埼玉医科大学4年　鈴木　慎

ドヤ街に通い始めてはや3年、釜ヶ崎、山谷、寿町に何回行ったかも、もはや覚えていない。三日坊主を信条に生きてきた私としては、これほど継続して続けられていることは、はじめてに等しい。大学に入学して3年間ドヤ街に通い続けた私が、今考えていることを寿町スタディーツアーの感想と言う形でまとめたいと思う。

親譲りの無鉄砲で子供の頃から損ばかりしているわけではないが、自分は坊ちゃんであることは言うまでもないと思う。地域の開業医の息子として生まれた私は、父や母などの家族、そして地域の方に愛され何不自由ない生活を送ってきた。そのパーソナリティーを端的に表すのであれば、お人好しの一言につきる。正直、お人好しという自分の性格は好きではない。そんな中、IFMSA に入り、はじめてドヤ街という場所に行った。正直、日本にこんなところがあるのかと驚いた。真っ昼間から路上でおっちゃん達は寝そべり、酒を飲み、賭け事をして遊び、炊き出しの列に並び、そしてまた寝る。彼らは本当に自由に見えた。他の人と感覚がずれているのかも知れないが、不器用で無骨な彼らの生き方が魅力的に感じた。それは、今までレールの上を走っているような人生だったからなのかもしれない。彼らとふれあうことで自分とは180 度異なった人生を見ることで、今まで曖昧だったやりたいことや自らの存在というものが輪郭を得て来たのだと考えている。そんな彼らに何かできないかと思い活動をしているわけなのだが、その私の思いも余計なお世話になってしまうことが多々ある。そこである程度の線を引きながら将来的に彼らのためになることをしたいと考えた。①彼らの抱えた問題を多くの人に共有する、②自分の人生に納得して死んで欲しいということの2つである。

①彼らの抱えた問題を多くの人に共有する。先にも書いた通り、ドヤ街は様々な問題が山積みである。感染症、各種依存症、精神疾患、孤独死、後期高齢化、就労、社会福祉制度、挙げればきりがない。その状況は将来の日本の縮図だと言われている。特に後期高齢化が進み孤独死が増え社会福祉制度の見直しが必要である点は、みなさんも納得できるはずだ。それを多くの人に伝え考えてもらうことで将来の彼らの生活が改善されるかもしれない。それだけではなく、この問題を考えることで将来の日本の問題解決、世界の問題解決のきっかけになりうると信じている。

②　自分の人生に納得して死んで欲しい。私が思う良い死というのは死ぬ瞬間に「あー良い人生だった。」と思いながら大事な人に看取られて死ぬことである。それを1つの良い死の形と定義するのであれば、重要な条件は人生に対する「納得」と看取ってくれる「誰か」の存在である。彼らの中には誰にも看取られることなく自分の人

生に対し懐疑しながら死んでいく人たちが多くいる。彼らの人生は今ある日本の発展を肉体労働と言う面で支え、現在の社会形成の礎を築いたといっても過言でないそんな素晴らしい人生への誇りを忘れぬままに逝って欲しいと思う。どのように、寄り添っていくかはまだ答えは出ないが何かしたいと思っている。

今回の寿町スタディーツアーを計画した背景には、上に書いたことを達成するためには何が必要か、そして、そのためにはどんなイベント構成にすれば良いのか、そして、どうしたら多くの参加者に満足してもらえるかを考えて開催した。裏目標は「彼らの生活に寄り添う」ということで、訪問ヘルパー同行と彼らの大好物かつ自分の大好物のアルコールとそれから生じる問題を扱うためにアルコール依存症のデイケアへの見学とした。

ヘルパー同行では利用者さんの生活を垣間見れたことはもちろん、「オレは、医者なんか信じられねぇ、出て行け！！」と怒鳴りつけられたのは良い思い出である。まだ、医大生なんだけどなと思ったのだが。それだけ、この人の医者に対する嫌悪感が強く、そうなったきっかけが必ずあったことを考えると少しむなしく感じた。このような人にどのように医療へアクセスさせていくかを考えさせられる一例であったと思う。

アルク（アルコール依存症向けのデイケア）ではアルコール依存症の方の病気に至るまでの過程と、そして彼らの抱える悩みについて学ぶことができた。ミーティングの参加は2回目なのだが、毎回異なった人々の思いを聞くことができ、非常に考えさせられる。普段からアルコールを飲む機会が多いので、自分もお酒との付き合い方を考えなければならない。

最後に寿町に訪問するたびにお手伝いしてくださることぶき共同診療所の鈴木伸先生、毎回本当にありがとうございます。先にドヤ街に通い始めて3年目と書いたが、その期間は長いようで短い、他の支援されている方に比べたらまだ青二才である。つまり3年間ぐらいでは継続性があるとは言えない。そして継続性、これが私の課題である。これからも興味を持ち活動し続けていけるよう自分自身に祈る。まだ3年目なのだ、先は長い。

☆　★　☆

見学の感想

旭川医科大学医学部2年　大和田　舞

私は日本の中でも比較的中間層より上の家庭で、家族や経済、健康面で何不自由なく暮らし、また、自分と同じような階級の人たちに囲まれた環境の中で生活をしてきたわけである。そんな私にとってドヤ街という場所は意識しなければ全く縁のない場所であった。しかし、将来医療者となり自分の持っている知識・技術を社会に還元していきたいと思う中で、「貧困」が私にとって非常に興味をひくトピックとなっていた。また、「貧困」といえば途上国や海外のスラムなどのほうが想像しやすいが、まずは身近にある国内からという姿勢で今回このツアーに参加した。

はじめに訪れた「ことぶき介護」では訪問ヘルパーの方に同行させていただき3人のお部屋に上がらせていただいた。その中で最も印象的だったのが3人目の女性の方だった。この方は、私達が部屋に上がるなり体中の

痛みを訴えてきた。女性は父親を癌で亡くしており、自分も同じ病気で死ぬのではないかと死への恐怖を涙声で訴えていた。部屋にはテレビが置いてあるものの、体が不自由で自由に動き回ることができなければ、家族もいない孤独な時間が多い。痛みに耐えながら過ごす24時間をこの女性は毎日どんな思いで過ごしているのだろうかと感じた。

次に訪れたアルクでは、「受け入れる」という議題でアルコール依存症のかたが自分の思いを語る様子を見学させていただいた。しっとりした雰囲気の中で皆さんが辛かっただろう過去の話を回想しながら話してくださった。アルコール依存症の方で共通して聞かれたのがやはり、自分が病気であるということがはじめは受け入れがたかったということだった。アルコールの摂取量がどれくらいであるかという差であって、治療が必要であると実感しているひとは少なかったのではと思う。今の自分が病気であるということは今までの自分の生き方を否定することなのかもしれない。幼少期の話を持ち出し、自分の人生はあの時からおかしかったと回想するものも少なくなかった。また、その人達にとってはアルコールが唯一の逃げ道であったのにそれを取り上げられなければいけないのだ。その唯一の逃げ道を医者が簡単に取り上げてしまっていいのか。アルコール依存症で苦しむ人達のために医者ができること、医者のいる価値というものがわからなくなった。一時間の話し合いが終わった後、職員の方にお話を聞く時間を頂いた。元アルコール依存症の方だとは一見信じがたいほど明るく親切な方で私達の質問にも丁寧に答えてくださった。職員の方に早速自分が抱いた感想・疑問をぶつけてみた。医者の役割とは何なのか。その方いわく、病気であると診断をくだし、きっぱりアルコールを禁止し制限するということであった。患者からすれば、医者から言われたらさすがにと思うらしい。家族にもできない、唯一医者にしかできない役割だ。実際にアルコール依存症になった方からの言葉というのは信頼性と説得力があった。また、医師としてこのような施設の存在を知っておき、医療で患者を抱え込むのではなく施設にすぐに送ってほしいと言われた。自分の利益ではなく、患者のことを考え、最も効率的な方法をとるべきなのだと思う。医療現場の域を超えたチーム医療がそこにあった。

アルクでは医者の役割というものを深く考えさせられたわけだが、一方で共同診療所の見学を始め、鈴木伸先生のお話を聞いて抱いた感想は、医療者として可能性を狭めないということだった。診療所の職員さんの雰囲気は普通の病院ではなかった。堅苦しくなく、活き活きとしていてなんだか楽しそうでもあった。鈴木先生のお話は寿町の医療の話だけでなく多岐にわたる包括的な話だった。私みたいにまだ医学部に入りたてで、将来医者になることがまだあまり実感できてない者には確かに医者とは何かということを学ぶ義務もあると思うが、医者や医療という域を超えて自分にできることを追求していくことをいつか目標にしたいと感じた。自分にとって医療というのはひとつの手段にすぎない。社会に自分は何を還元することができるのかもっと広い視野で考え、次にその中での自分の役割を考えて行きたいと思った。

IFMSA(国際医学生連盟) SCORP(人権と平和に関する委員会)LARF「報告書」より転載

職員自己紹介

医師
久松　由華

平成25年8月より火曜日（第一週除く）に診療をさせていただいております。

土屋洋子先生と大学病院でご一緒して以来、個人的にも仲良くさせていただいてます。以前からこちらの活動についてうかがっておりまして、この度トライしてみることになりました。

自分は横浜育ちで、小学校時代は日ノ出町駅前の塾に通い、中高は山手の丘にある学校に通ってました。母親がカトリック教会に出入りしてた関係で、断酒会のお手伝いをしたような事を言っていた記憶もあります。そんな感じで、寿町のことは子供の頃からなんとなく頭にありました。何十年もたってついに自分が直接関わらせていただくことになりました。ご縁なんでしょうか。

他はどこで何してるの？とよく聞かれますが、隙間産業的にあちこちで色んな事をしております（笑）。日替わり週替わりで6社の産業医、青年海外協力隊の顧問医他、大学病院や精神科クリニックの外来にも出没しております。6年前に医局を辞めたあと、依頼されるがまま受けてたらこういう形態になりました。

特に人間愛豊富なわけでもないフリーランス医師ですが、少しでもお役に立てれば幸いです。色々学ばせていただきたいと思っていますので、ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いします。

ちなみに実は人見知りなので、時折とっつきにくい事もあるかもしれませんが大目に見てくださいね。

寿町地域ニュース・あらかると
（'13年6月～11月）

【国の貧困対策関係】8月から始まった生活保護費削減に対する不服審査請求全国で広がる(9月末現在で10,654件)[8月～]／社会保障審議会生活保護基準部会再開、生活扶助以外の保護費の検討等が始まる[10.4]／6月に廃案になった生活保護改正案・生活困窮者自立支援法案が閣議決定[10.15]【センター】寿町総合労働福祉会館建替え等についての住民説明会[10.22]また同施設再整備事業についてのパブリックコメント募集[11/1-29]【介護】NPO法人ことぶき介護10周年記念パーティ[11.15]／マルキンストアー閉店後の店舗でデイサービスあすなろオープン[11.22～内覧会 12/1 オープン予定]【簡易宿泊所】豊荘改築後第二長生館オープン[7.8]／扇荘新館で火災[8.19]／(仮称)山一ビル新築中(寿町1-1-5)／(仮称)東会館新築中(寿町3-9-6)／(仮称)扇町4丁目簡易宿泊所新築予定(扇町4-12-2、12-3)／(仮称)長者町1丁目簡易宿泊所新築予定(長者町1-1-13)[11.20]【アルコールリハビリ】寿アルク20周年記念セミナー[11.2]【総菜店】丸光ショップ閉店[10.25]【社協】県社協が困窮者支援を行う「かながわライフサポート事業」開始[8月]【違法貸しルーム】国土交通省、神奈川などで191件あると公表[9.25]【理容】新井屋(お好み焼き・やきそば)閉店後の店舗に「理容朝日」が移転[6月]

※ 寿町に関係する国の政策等も一部含まれます。　（寿町関係資料室　松本　一郎）

診 療 所 日 誌 ‘13 年 7 月～11 月

7 月　今年も暑い夏です。身体にこたえます。

7 月 3 日　越智医師講演会「ここ 15 年間の寿町における精神障がい者の変遷」を職員聴きに行く。
7 月 5 日　患者Ｏさん、脈拍 200。救急搬送。その後病院になかなかつながらず。ヘルパーさんの介護により受診体制が整う。
7 月 9 日　先月末高島屋にお買いものに行ったターミナルのＳさん、入院先の病院でなくなる。ぎりぎりまで部屋で過ごしました。
7 月 10 日　DOTS に来ていたＮさん。万引きでつかまる。
7 月 12 日　「ことぶき共同診療所だより 35 号」できる。
7 月 16 日　デイケアメンバー相次いでスリップ。
7 月 17 日　夏の稲子に向け、れんげ荘の掃除へ。
7 月 31 日　巨漢の患者Ｍさん、部屋で動けなくなっているも入院拒否。やっとのことで入院するが、3 日後に退院となる。
　デイケア、映画「風立ちぬ」見に行く。

8 月　デイケアメンバーさん、スリップ続く

8 月 2 日～3 日　デイケア、稲子でバーベキューと川遊び。
8 月 8 日　デイケアＮさんスリップ中。1 日 30 回電話がある。
8 月 12 日　心療内科久松医師、第一週を除く毎週火曜日診療開始。
8 月 22 日　医学部学生さん、見学。後日報告集をくれる。
8 月 27 日　デイケアメンバーさん、泥酔。
8 月 29 日　患者Ｋさん、入院を促すが拒否。診察の途中で逃亡。

9 月　入院の多い 9 月です。

9 月 3 日　デイケアＭさん退院。歩行困難で車いす対応。デイケアで受け入れ体制を整える。
9 月 21 日～22 日　デイケア、稲子で稲刈り。
9 月 26 日　東邦大学看護学生、精神科実習の一環でデイケアに一日参加。

10 月　デイのメンバーさんの飲酒がまだまだ続いています。

10 月 4 日　高血圧のＨさん、せん妄状態となり、入院先への搬送途中で逃亡。
10 月 11 日　ことぶき共同診療所大運動会
　DOTS に来ていたＫさん、行方不明で捜索願を出す。
10 月 15 日　行方不明になっていた患者Ｋさん、山谷で保護される。
10 月 17 日　デイケアメンバーさん、他のメンバーさんを巻き込みつつ飲酒中。
10 月 23 日　デイケア若山康志さん、部屋で亡くなる。
10 月 24 日　若山さんのご両親が診療所へ見える。
10 月 25 日　神奈川県立保健福祉大学の学生が見学。鈴木医師が「寿と医療」について説明。
10 月 29 日　デイケアで鈴木医師が「アルコール依存症」の話をする。

11 月　通院患者さんの訃報の連絡が続く。

11 月 6 日　弓野医師、診療日を水曜日午前に変更。
11 月 14 日～15 日　日赤看護大学学生さん、実習の一環で寿へ。
11 月 15 日　昼休み、接遇研修を行う。
11 月 20 日　デイケアＴさん、肉をのどに詰まらせるが大事には至らず。
11 月 21 日　寿福祉まつりにデイケアからも初出店。
11 月 22 日　中区公園愛護会交流会で川崎さん発表。

（矢島　雅子）